



幼児教育センターでは毎年様々な研修を企画しています。そして職員も様々な研修を受け、アップデートできるよう努めています。今回は、伊丹市の幼児教育研修会に参加させていただきました。大変参考になる内容でしたのでご紹介します。

**演題：「気になる子どもへの指導、支援～保護者への対応と支援～」**

**講師：武庫川女子大学 講師 渡邊 真美 氏**

### 講演内容(要点まとめ)

#### 1. 子どもの理解と保護者の不安や悩みについて

○保護者が「何か気になる」と感じた時の反応は様々。

- ①楽観的：「様子を見てみよう」「何とかなる」
- ②心配：「相談してみよう」「ネットで調べてみよう」
- ③疑問：「まさかね…」
- ④否定的：「恥ずかしい」「ちゃんとさせなきゃ」

→保護者の不安や悩みは家庭状況、保護者や子どもの状態等、多様な理由によるため、話すタイミングや寄り添い方を工夫することが大切。

#### 2. 立ち話の記録について(渡邊先生の実体験より)

○保護者との何気ない立ち話にも重要な情報が含まれる。

- ・筆記用具を常備し、立ち話の際にも記録を取る(記録を取る旨は保護者に了承を得る)。
- ・記録は事実のみを記入し、保護者の言葉やこちらから伝えたことが開示できるようにする。

○記録を蓄積する。

- ・保護者が困っている点を見付けられ、考え方の「クセ(偏り)」も把握できる。
- ・園内で共有することで多角的な見方ができる。

#### 3. 保育者・教員としての視点

○冰山モデル(※)で子どもの行動を考える。

※物事の全体像を捉える枠組

- ・水面上：実際に見える子どもの行動
- ・水面下：なぜそうしたかの背景(情報を集め、話を聞いて探る)

→水面上と水面下をつなげ、保護者と一緒に支援の手立てを考えていくことが重要。

### 参加者のお悩み相談タイム(抜粋)

○相談例：「子どもの言いなりになってしまう保護者がいる」

「高圧的な母に子どもが怯えている」等

→渡邊先生は各相談に丁寧に回答されていました。

来年度の研修講師として来ていただきたいとお願いしたところ、快く引き受けてくださいました。研修は12月を予定しています。普段の疑問や悩みを持ち寄り、一緒に考えていきましょう。